



株式会社フィックススターズ

2026年9月期第1四半期決算補足説明資料

2026/02/13

本資料に記載の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報および仮説に基づき当社が判断したものであります。

当該仮説や判断に含まれる不確定要素や事業環境の変化による影響等の様々な要因により、実際の業績等は本資料記載の業績予想とは異なる場合があることをご承知おきください。

1

2026年9月期 第1四半期 決算説明

前年同期比で增收・減益もほぼ想定通りの着地

前第4四半期比では減収だがSaaS事業に注力し、SaaS事業の成長が加速

売上高

2,534百万円
(前年同期比 +9.3%)

営業利益

663百万円
(前年同期比 ▲10.1%)

売上高の増加要因

- 自動車業界向けの高速化サービスを中心に旺盛な需要が成長を牽引
- 「Fixstars AIBooster」関連の売上によりSaaS事業が前年同期比で2倍近い成長

営業利益の減少要因

- 優秀な人材の獲得に向けた大幅な賃上げの実施
- 本社移転に伴う一時的な費用等（前オフィスの原状回復費用）

連結損益計算書

前年同期比で増収も、大幅な賃上げの実施、本社移転に伴う費用等が利益を下押しし減益。

上期は前年同期比で増収減益を見込んでおり、概ね想定通りの進捗。

(単位：百万円)	2025年9月期 1Q	2026年9月期 1Q		
	実績	実績	前年同期比	通期進捗率
売上高	2,319	2,534	+9.3%	24.6%
営業利益	738	663	▲10.1%	25.5%
売上高営業利益率	31.8%	26.2%	▲5.6pt	
親会社株主に帰属する 当期純利益	459	449	▲2.2%	28.1%
売上高当期純利益率	19.8%	17.7%	▲2.1pt	

売上高

SaaS事業にリソースを重点的に投下したことにより、Solution事業の売上は前四半期比で微減。SaaS事業は過去最高の売上を達成。

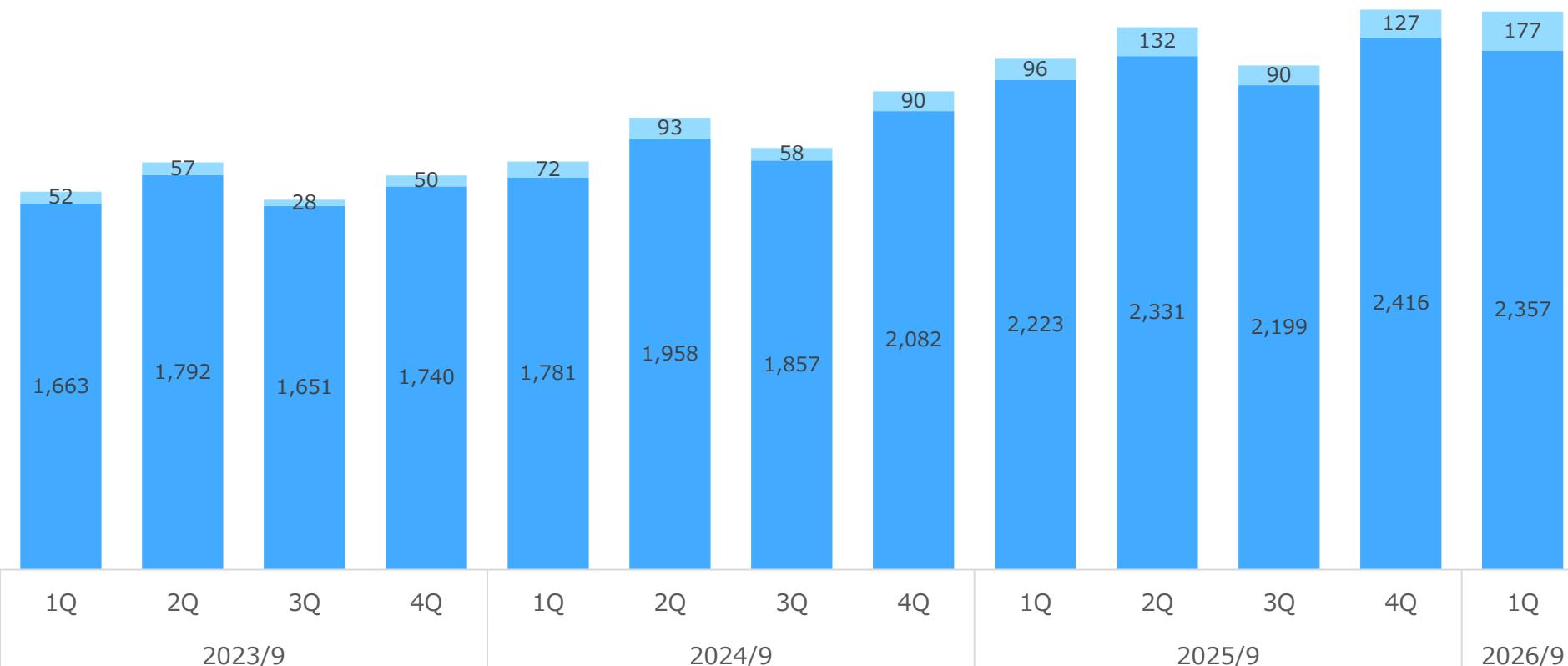
自動運転向けの高速化サービスおよびAI開発のニーズが強く、業界別の売上構成比率は自動車業界が約40%を占める。

長年安定した需要のある半導体業界は前期と同程度の約25%であり、金融業界は約5%となった。

■ SaaS事業

■ Solution事業

(単位：百万円)

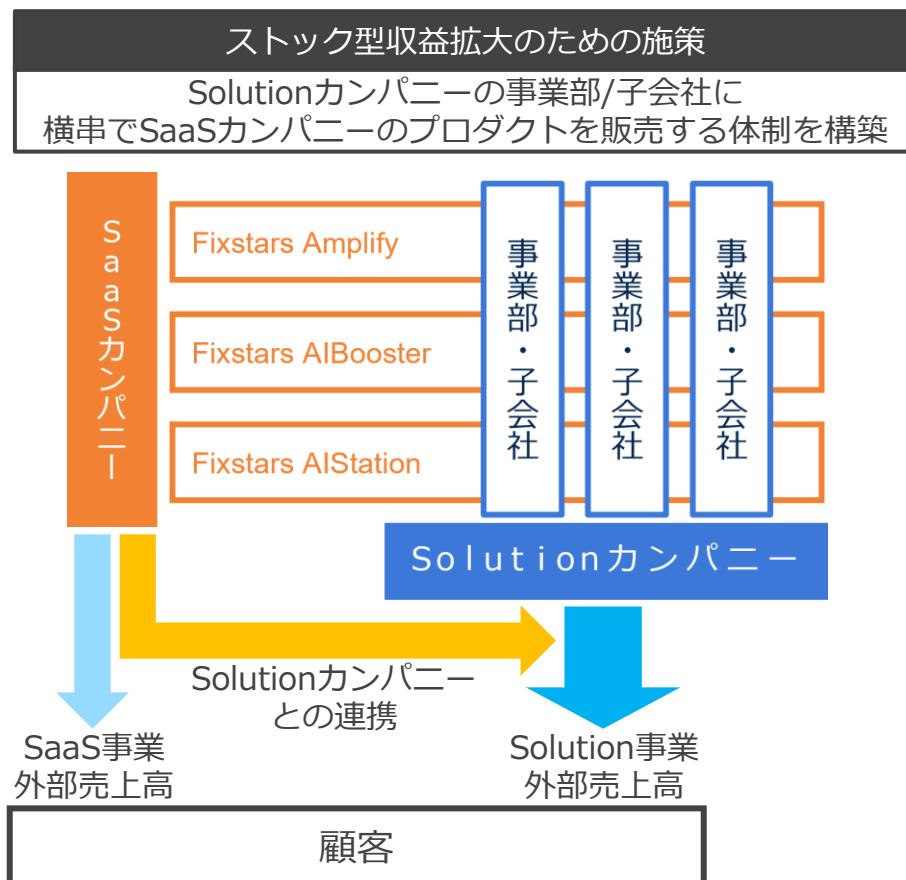


売上高：SaaS関連のストック収益推移

中期経営方針として、ストック型収益拡大への取り組みを強化。

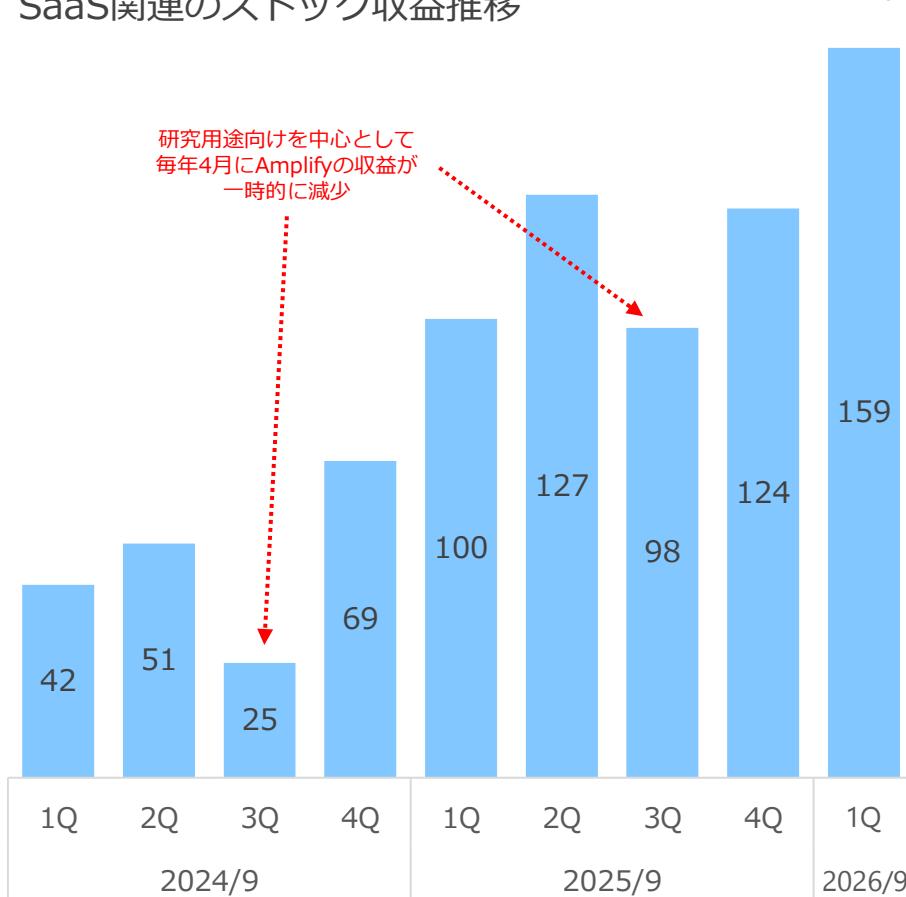
Solutionカンパニーの各組織と連携して、Fixstars Amplify, Fixstars AIBooster, 及びFixstars AIStationを中心としたSaaS製品の販売を推進中。

ストック型収益はFixstars AmplifyおよびFixstars AIBoosterが共に伸び成長軌道が加速。



SaaS関連のストック収益推移

(単位：百万円)



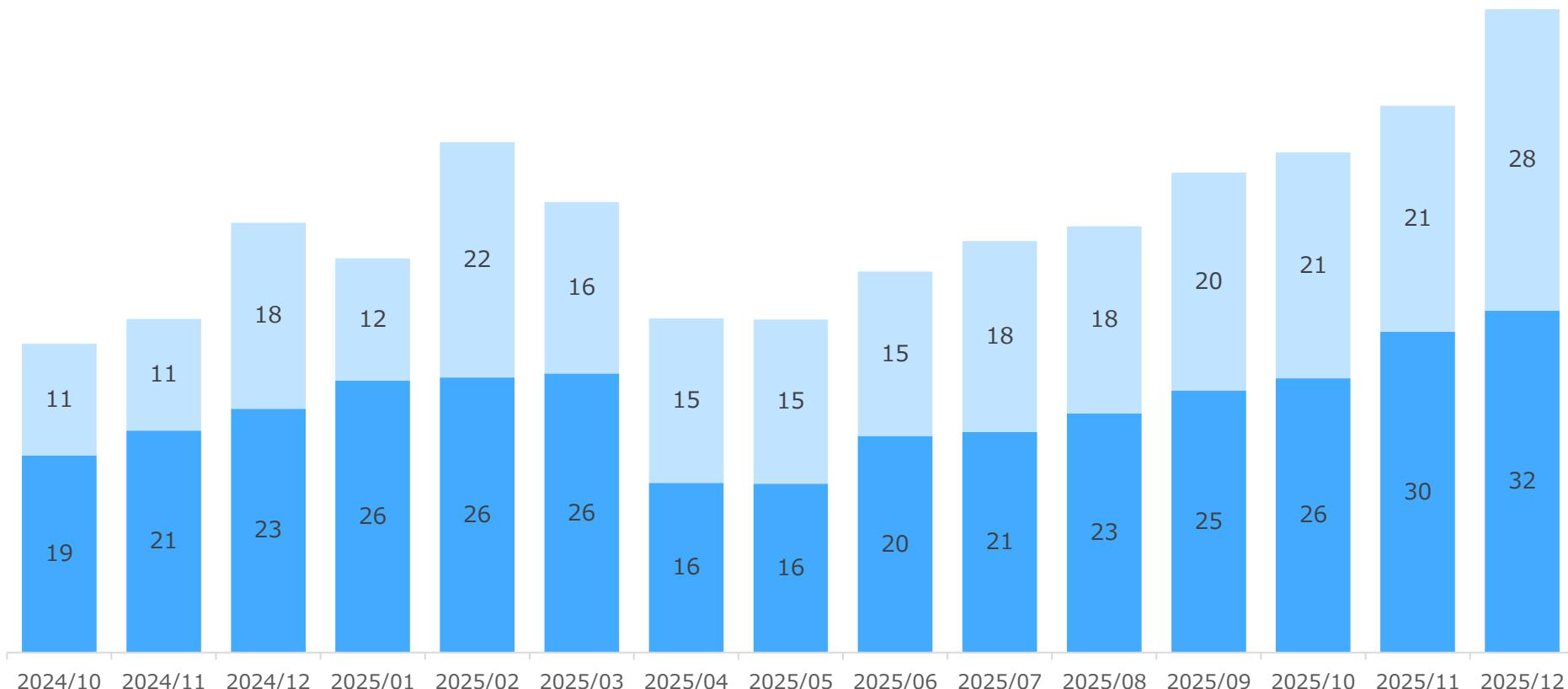
売上高：SaaS 事業の Monthly Revenue (MR) のブレークダウン

Fixstars Amplify および Fixstars AIBooster が共に伸び成長軌道が加速。

Fixstars AIBooster は自動車業界向けのパーティカル事業と業界横断のホリゾンタル事業において共に MR が積み上がっており、更なる成長が期待される。

■ Fixstars Amplify
■ Fixstars AIBooster

(単位：百万円)



営業利益*

* 主要なセグメントのみを記載

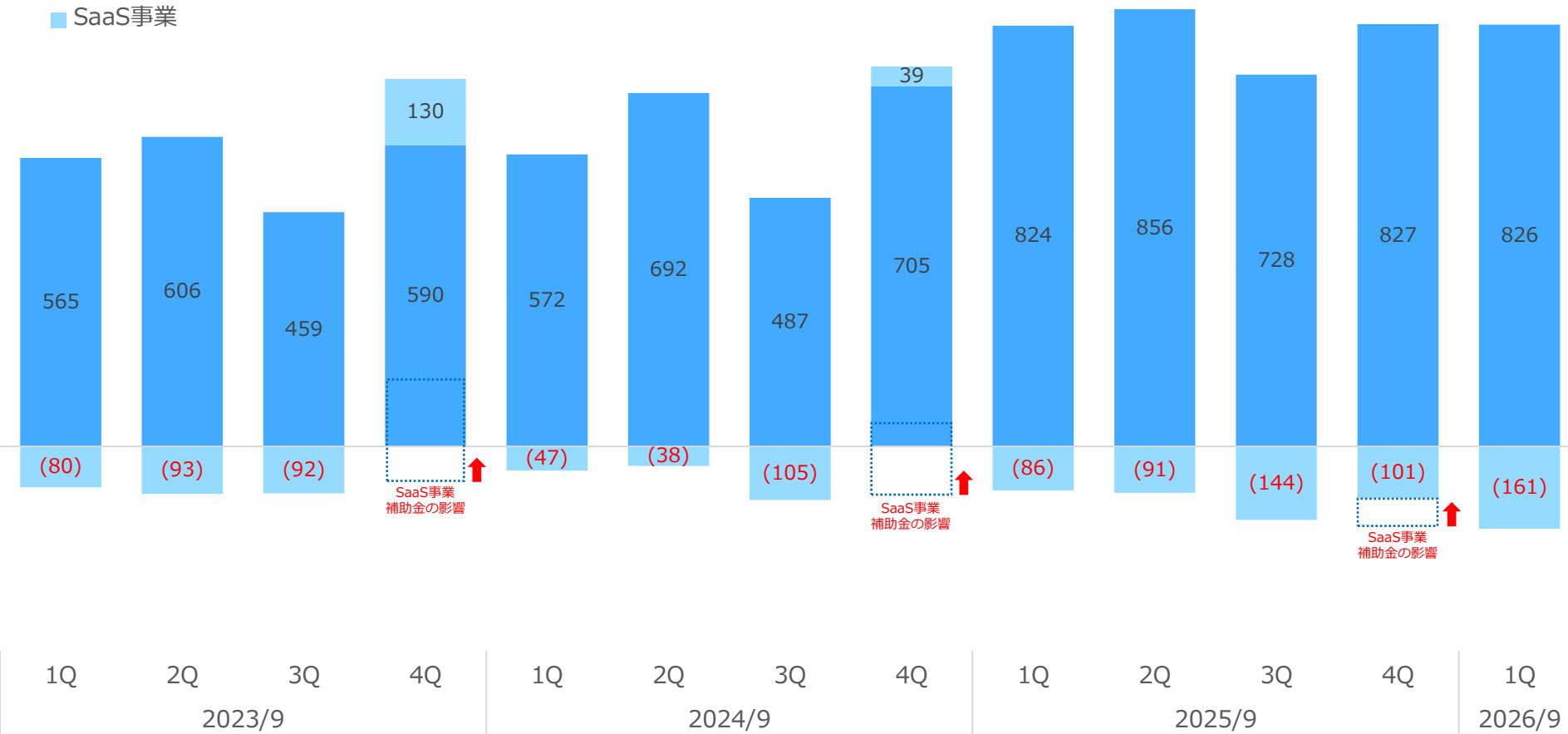
Solution事業において安定的に収益を獲得し、引き続きSaaS事業へ積極的な投資を実施。

SaaS事業へのリソース投下により、同事業の赤字幅は微増。

■ Solution事業

■ SaaS事業

(単位：百万円)



売上高・営業利益進捗率*

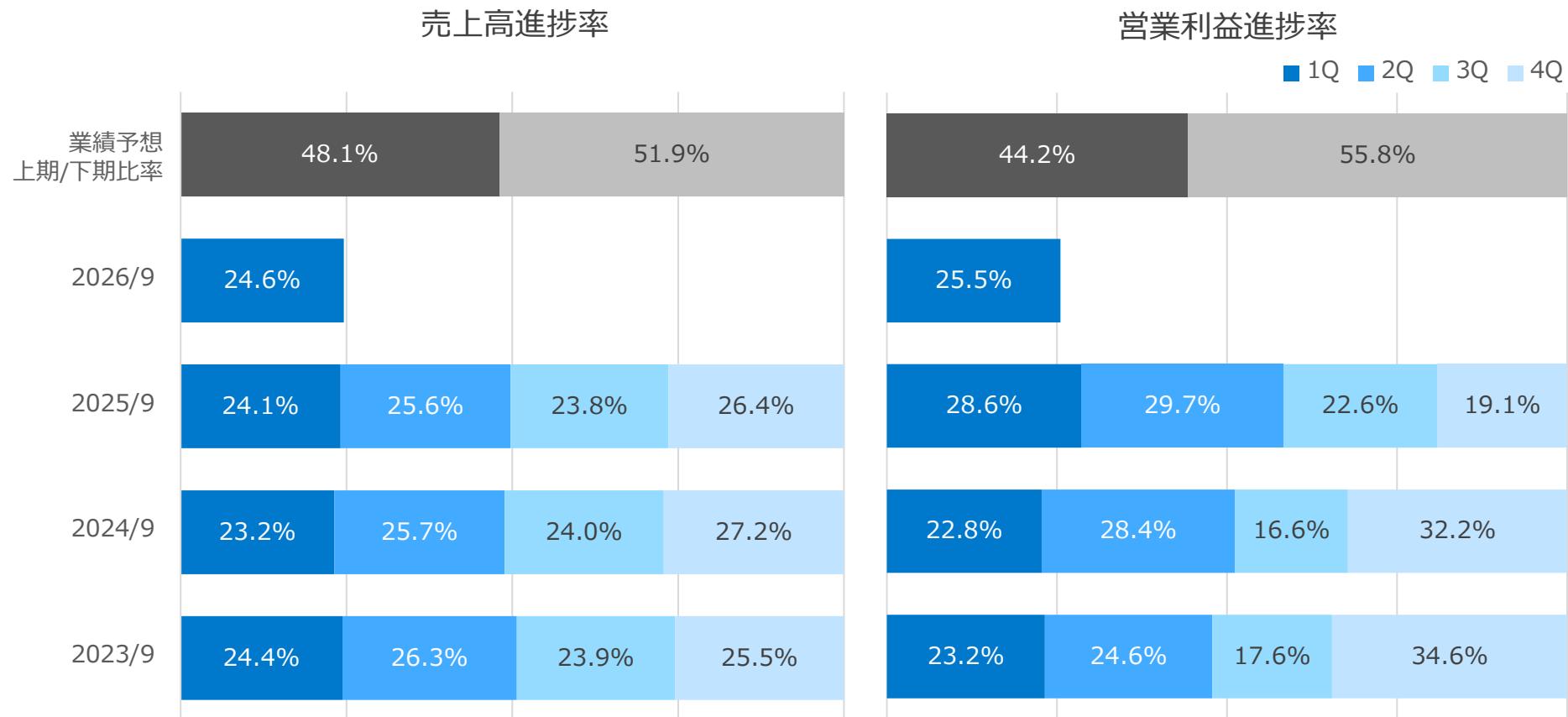
概ね期初想定通りの進捗。

* 当期の進捗率：四半期実績値 / 通期業績予想値
 過年度の進捗率：四半期実績値 / 通期実績値
 (小数第二位四捨五入)

売上高進捗率

営業利益進捗率

■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q



研究開発費

AI関連事業の研究開発を拡大。量子コンピューティング関連ではNEDO等からの補助金を活用し、費用負担の軽減を図る。

補助金は金額確定後に研究開発費から控除しており、確定した四半期（各期4Q）においては研究開発費の計上額が減少。

(単位：百万円)

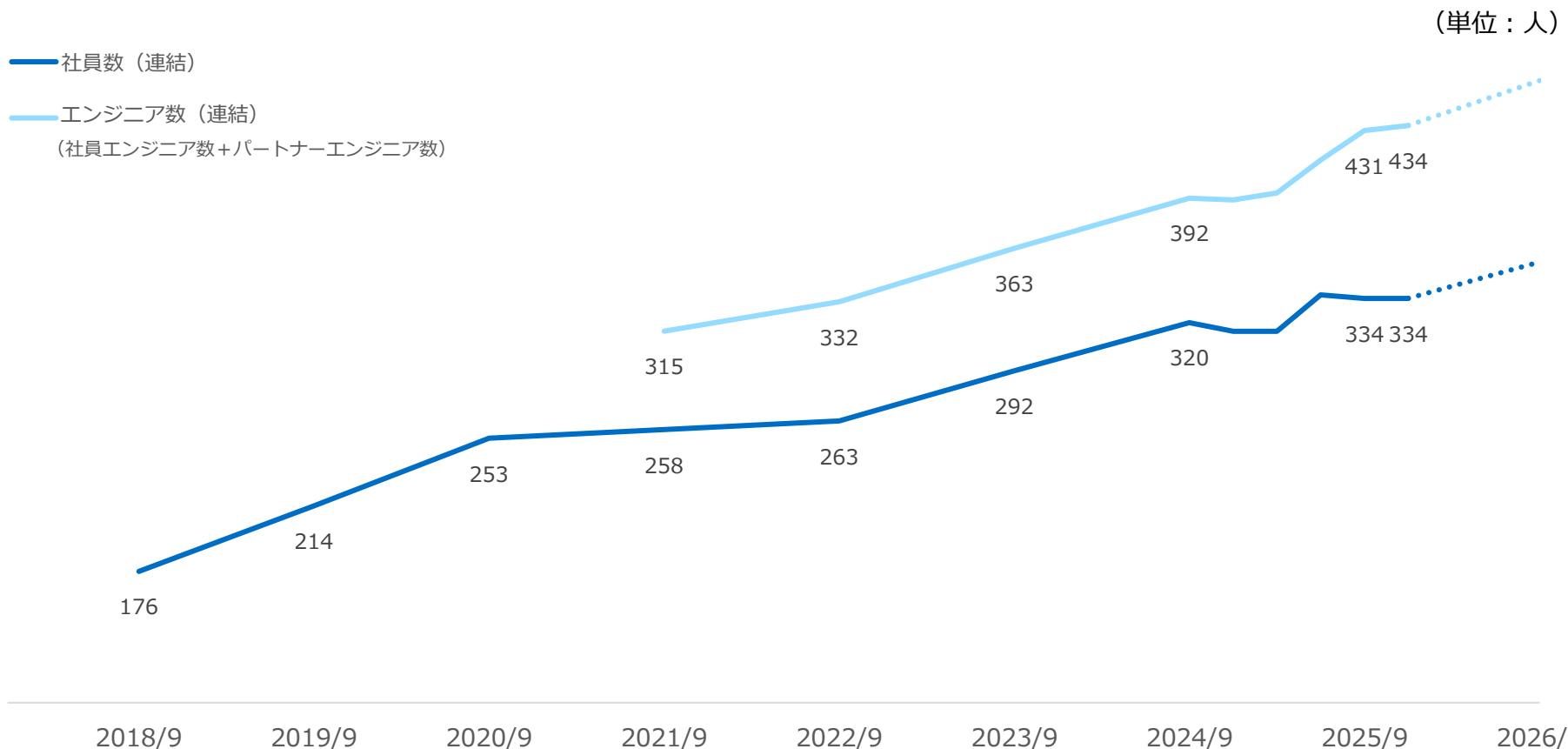


社員数・エンジニア数*推移

* エンジニア数の集計は2021年9月より
** 2024年9月期までは期末人数のみ集計

大幅な賃上げを実施したことでも元の採用状況は好転しており、2Q 以降の売上貢献が見込まれる。

1Q の社員数は入社・離職が共に 7 名となり横ばいだが、離職数は前期から改善傾向が見られ、2Q 以降の社員数は増加の見通し。



2

2026年9月期 通期業績予想

・売上、営業利益とも過去最高を見込む

- ・ 売上高 : 10,300百万円 (前期比 +7.1%)
- ・ 営業利益 : 2,600百万円 (前期比 +0.8%)
- ・ 当期を更なる成長への土台作りと位置付け、緩やかな成長となる見込み
 - ・ SaaS事業での製品開発にリソースを重点投下
 - ・ 本社移転、大幅な賃上げによる利益への下方圧力

・中期経営ビジョンの実現に向けて

- ・ 高速化技術を核に、AIと量子コンピューティングによるIPドリブン成長へ
- ・ Solution事業とSaaS事業の連携を強化し、ストック型収益につながる受託開発への取り組みを加速することでストック型収益の拡大を図る
- ・ 「技術」と「経営」がわかる人材育成の継続

連結損益計算書・配当金

当期純利益は前期の特殊要因（子会社清算による税金負担減少）の反動や本社移転関連の特別損失計上により減益の見込み。

配当は連結配当性向30%及びDOE（純資産配当率）7%を目安に実施する方針。

(単位:百万円)	2025年9月期	2026年9月期	
	実績	予想	前期比
売上高	9,617	10,300	+7.1%
営業利益	2,578	2,600	+0.8%
売上高営業利益率	26.8%	25.2%	▲1.6pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,945	1,600	▲17.8%
売上高当期純利益率	20.2%	15.5%	▲4.7pt
1株当たり当期純利益	60.34円	49.60円	▲17.8%
1株当たり配当金	18円	18円	±0円

3

補足資料

3

補足資料① 個別事業の状況

「速くしてあげる」 + 「動かしてあげる」

主力である受託開発（速くしてあげる）を中心としたフロー収益だけでなく、
その動作環境も提供する（動かしてあげる）ことでストック収益を拡大し、より強固なビジネスモデルを構築します。

速くしてあげる

高速化サービス

受託開発を中心とした
フロー収益

ソフトウェアを高速化し、
顧客の様々なビジネス課題を
解決する



機械学習・AI



スマート
ファクトリー



自動運転



遺伝子解析
・画像診断



金融

...

動かしてあげる

クラウド環境

継続的な
クラウド
利用料収益

高速化したソフトウェアを
クラウド環境上で
効率的に動かす



動かしてあげる

エッジデバイス

継続的な
デバイス
販売収益

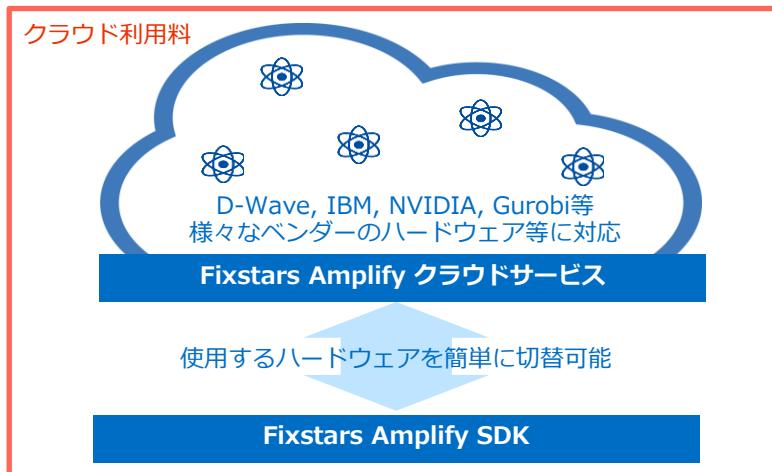
高速化したソフトウェアが
動くエッジAIデバイスを
提供する

実用化が進む「量子インスパイアードコンピューティング」

量子コンピュータの実用化に先駆け、その計算手法を従来のコンピュータに適用した「量子インスパイアード技術」を活用して、複雑な組合せ最適化問題の解決に貢献。

問題解決のためのコンサルティング・ソフトウェア開発等（フロー収益）とクラウド利用料（ストック収益）の両面で事業を推進しています。

サービス概要



事業の状況

- Fixstars Amplifyを活用して開発された物流センター向け従業員最適配置システム「magiQanneal：マジカニール」の導入数が6社を超え、現在複数社と商談中
- ユーザ環境にて設置と運用が可能なオンプレミス版の提供を開始
- 登録組織数 1000、累積実行回数 1 億回を達成

今後の施策

- Fixstarsグループの各サービスとの連携強化に向けてAIワーカロードにおける最適化課題の解決にFixstars Amplifyの適用を検討
- Amplifyクラウドサービスの拡張を続け、実社会問題への対応領域を広げるとともに、組合せ最適化問題解決のプラットフォームとしてデファクトスタンダードを目指す
- Fixstars Amplifyクラウドサービスの海外展開に向けた活動



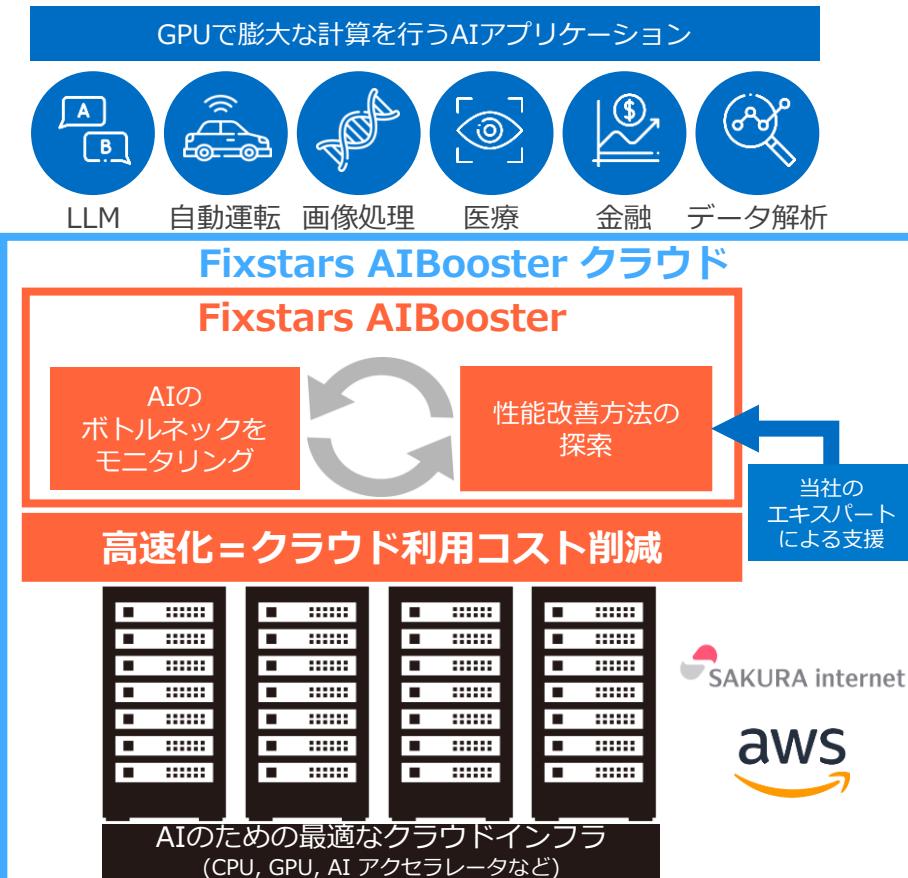
コスト効率の高いAI開発・運用を実現する パフォーマンスエンジニアリングプラットフォーム

AI開発・運用の現場において不可欠となっているGPU。その高い計算能力を十分に活用できていないケースは少なくありません。

Fixstars AIBoosterによってGPUをより高効率に活用することで、開発期間の短縮、運用コストの低減を実現し、顧客の製品競争力の強化に貢献します。

またAI開発・運用のためにコスト最適化されたFixstars AIBoosterクラウドを提供することで顧客のクラウド利用コストを削減します。

サービス概要



事業の状況

- Fixstars AIBoosterの機能強化に加えて、AI開発・運用のためにコスト最適化されたFixstars AIBoosterクラウドの提供に向けて準備中
- AIモデル最適化の診断機能とモニタリングの自由度を強化した最新版を提供
- 『実践的パフォーマンスエンジニアリングによるAI高速化』を刊行し、Fixstars AIBoosterのセールスマテリアルとして活用



今後の施策

- 自動車業界を中心としたバーティカル戦略とLLM/AI基盤向けのホリゾンタル戦略を組み合わせた営業活動を推進
- パフォーマンス改善機能を中心とした製品の機能強化、活用事例の蓄積、知名度向上
- Fixstars AIBoosterの海外展開に向けた活動

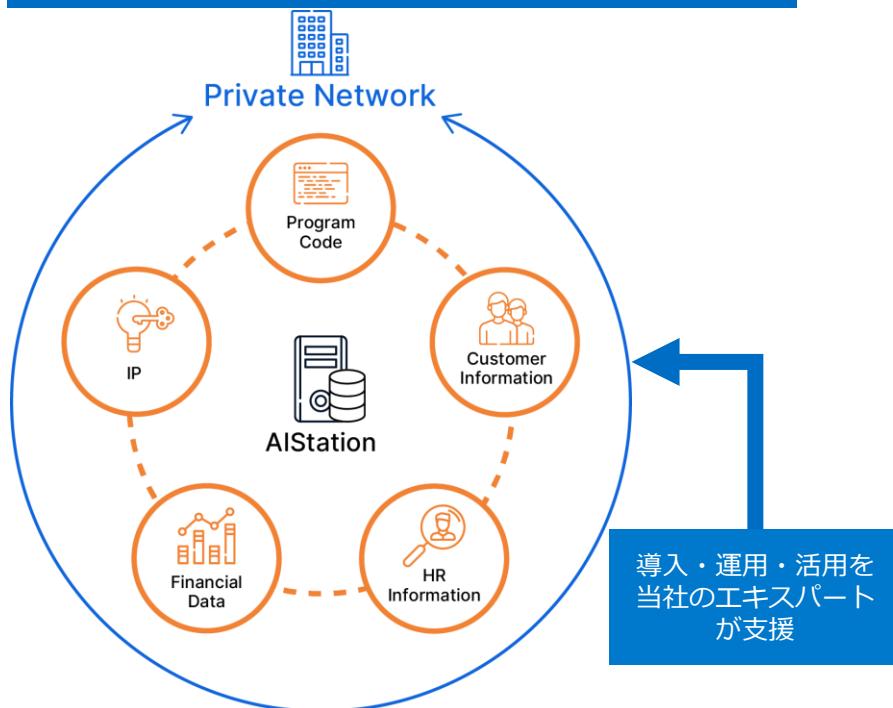
届いてすぐにローカルLLMが使えるセキュアなAIオールインワン環境

Fixstars AIStationは、AI処理をすべてローカル環境で実行するため情報漏洩のリスクを減らしつつ最新のAIモデルを活用することができます。

また検証された最新のLLM/AIモデルとアプリケーションがセットアップ済みのため、届いてすぐにセキュアAIの利用ができます。

サービス概要

セットアップ済みの専用ワークステーションをレンタルで提供
(ソフトウェア利用料・サポート費用込み)



事業の状況

- ☑ 最新のLLM/AIモデル及び高性能GPUを搭載した「Fixstars AIStation」のレンタル提供を開始
- ☑ 機密性の高い情報を扱うユーザをターゲットに、「Fixstars AIStation」の導入に向けた活動を展開中
- ☑ リスク管理クラウドサービスを提供しているGRCS社との提携においてもセキュアなAI環境である「Fixstars AIStation」を活用

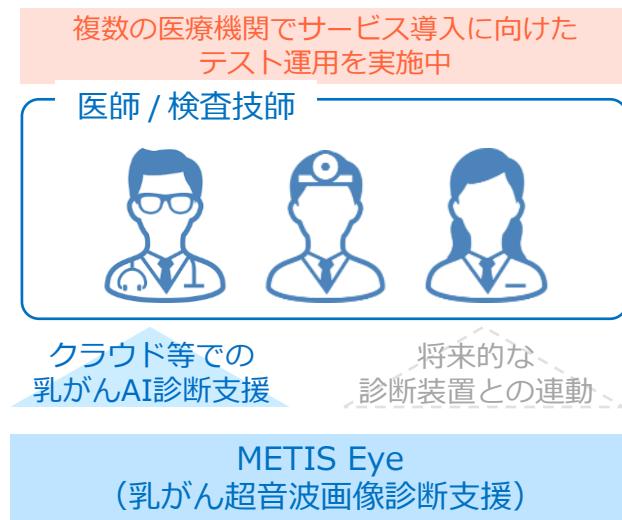
今後の施策

- ☑ Solution事業の顧客リレーションおよび販売パートナーを活用した営業活動を強化
- ☑ オンプレミス環境でセキュアに実行できる次世代AIエージェント（生成AI+量子技術+業務支援）の開発
- ☑ 検証済みAIモデルの拡充、製品の機能強化、活用事例の蓄積、知名度向上

乳がんAI画像診断支援事業

乳がんの超音波画像に対し、AIを用いて精密検査の要否を高速かつ高精度に判別し、医師の負担軽減を目指します。
乳がんの早期発見を支援し、がん発見後も総合的に患者さんをサポートするサービスを提供していきます。

サービス概要



Note: 1) e-Patient Reported Outcomes: ITを活用して、患者の症状や副作用の状況をモニターするシステム

2) Patient Support Program: 疾病やその治療に関する情報提供、多様な患者ニーズへのサポートなどを通じて、患者のQOL向上に寄与することを目的としたプログラム

事業の状況

- 慶應義塾大学予防医療センターで「METIS Eye」の運用を開始
- システムメーカーとの接続を経て「METIS Eye」を医療機関に導入開始
- Mayo Clinicのデータを用いてより精度の高いAIを開発し、今後の展開を検討中

今後の施策

- 学会・健保組合・クリニック等多方面から普及を推進
- 普及に向けてのブランディング強化
- 海外展開に向けた活動

4

補足資料②

フィックススターズについて

高速化のエキスパート集団

フィックスターズは、“Speed up your AI”をコーポレートメッセージとして掲げるテクノロジーカンパニーです。

計算資源を最大限に活用するソフトウェア最適化技術を駆使し、AIモデルの推論処理と学習プロセスの両面で圧倒的な高速化を実現する、高速化のエキスパート集団です。

概要

会社名	株式会社フィックスターズ
本社所在地	東京都港区芝浦1-1-1 BLUE FRONT SHIBAURA TOWER S 31階
設立	2002年8月
上場区分	東証プライム（証券コード：3687）
代表取締役社長	三木 聰
資本金	5億5,446万円（2025年12月末現在）
社員数（連結）	334名（2025年12月末現在）
主なお客様	キオクシア株式会社 ソニー・ホンダモビリティ株式会社 株式会社ネクスティ エレクトロニクス みずほ証券株式会社

グループ体制

株式会社フィックスターズ

Fixstars Solutions, Inc.

100%子会社
米国での営業及び開発

株式会社Fixstars Autonomous Technologies

株式会社ネクスティ エレクトロニクスとのJV
自動運転向けソフトウェア開発に特化

株式会社Fixstars Amplify

100%子会社
量子コンピュータ関連のクラウド事業

株式会社Smart Opinion

連結子会社
乳がんAI画像診断支援事業

オスカーテクノロジー株式会社

連結子会社
ソフトウェア自動並列化サービス

株式会社Fixstars Investment

100%子会社
ベンチャー企業への投資及び育成を行う投資事業会社

コンピュータの進歩とともに

ハードウェア技術の進化にいち早く対応し、
その性能を最大限に引き出すソフトウェア開発・高速化サービスとともに成長してきました。

年月	出来事
2002年 8月	神奈川県横浜市に有限会社フィックスターズ設立、その後株式会社に組織変更
2004年 7月	マルチコア技術開発部設立、Cell/B.E.ソフトウェア開発サービス開始
2008年 12月	GPU高速化サービス開始
2009年 12月	「OpenCL入門—マルチコアCPU/GPUのための並列プログラミング」を出版
2010年 11月	米国空軍研究所に、PlayStation®3を用いた高速クラスタシステムを導入
2011年 10月	FPGA高速化サービス開始
2012年 1月	NANDフラッシュメモリ関連ソフトウェア開発サービス開始
2014年 4月	東京証券取引所マザーズ市場に上場
2016年 11月	東京証券取引所市場第一部に市場変更
2017年 6月	量子コンピュータを手掛けるD-Wave社との協業を開始
2018年 2月	自動運転分野のさらなる拡大を目指し、ネクスティ エレクトロニクス社と合弁会社Fixstars Autonomous Technologiesを設立
2021年 10月	量子コンピューティング領域のさらなるサービス事業拡大を目指し、株式会社Fixstars Amplifyを設立
2022年 4月	東京証券取引所の市場再編に伴い、東京証券取引所プライム市場に市場変更
2025年 3月	コーポレートスローガンを「Speed up your AI」に変更

コンピュータの恩恵を人々に

計算機器の性能を最大限に引き出すソフトウェア高速化技術とSDK開発技術を軸に、
コンピュータの活用がより一層進むこれからの世界を支えていきます。

フィックスターズの高効率なソフトウェアが、
クラウドとエッジの両サイドでコンピューティング基盤を支える世界の実現

パーカス

ソフトウェアを効率的に動かすことで

- できなかった計算をできる計算にする
- コンピューティングに必要な消費電力を低減する

コアバリュー

ソフトウェア高速化技術

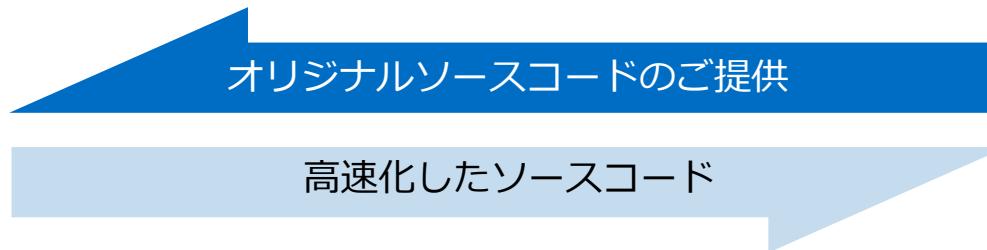
SDK開発技術

ハードウェア・ソフトウェア両方に対する深い理解・知見

ソフトウェア高速化サービス

当社事業の根幹をなすソフトウェア高速化サービスにおいては、

ソフトウェアの最適化やアルゴリズム改良等によりコンピュータの性能を最大限に引き出すことで、大量データの高速処理を実現しています。



性能評価

ボトルネックの特定

アルゴリズムの改良・開発

ハードウェアへの最適化

レポート作成

レポートやコードへのQ&A

実製品への組込み支援

高速化技術による環境負荷低減

当社は、多様な産業分野に対する高速化ソリューションにより電力消費を大幅に抑え、環境負荷低減に貢献しています。

多様な産業分野における高速化ソリューション

Semiconductor

- ・NAND型フラッシュメモリ向けファームウェア開発
- ・次世代AIチップ向け開発環境基盤の開発

Mobility¹

- ・自動運転の高性能化、実用化
- ・次世代パーソナルモビリティの研究開発支援

Life Science

- ・ゲノム解析の高速化
- ・医用画像処理の高速化

Finance

- ・デリバティブシステムの高速化
- ・HFT(アルゴリズムトレード)の高速化

Industrial

- ・Smart Factory化支援
- ・マシンビジョンシステムの高速化

数倍～数百倍の高速化による
電力消費時間の短縮



Note: 1) 一例として、自動運転向け画像認識処理の高速化（1車種）のみでも、2020年に約14,000トンのCO2削減が見込まれる（当社推計）

高速化に限らない様々な社会貢献

高速化ソリューションによる消費電力削減に加え、自動運転や医療等の様々な分野への支援により、環境や社会の課題解決に貢献しています。

当社事業領域



自動運転の高性能化、実用化
次世代パーソナルモビリティの研究開発支援

社会的価値

交通事故の根絶
交通弱者へのサポート

より気軽でより質の高い
診断・治療へのアクセス



AIによる画像診断支援



量子コンピューティングによる生産性の向上、労働の効率化

カーボンニュートラルへの貢献

